

# 2011年度冬学期 大学院（総合法政専攻・公共政策専攻）演習

担当教員：中山 洋平

題目：西ヨーロッパ比較政治文献講読／西欧比較政治論  
：中央地方関係再編の政治

備考：学部と合併 火曜 5 限・A1 演習室

初回・10月11日は必ず出席のこと（やむを得ず欠席の場合は、  
メール [y-naka@j.u-tokyo.ac.jp](mailto:y-naka@j.u-tokyo.ac.jp) で必ず連絡すること）

## 概要と教材

政府間関係は統治構造の骨格であり、その再編は財政、社会保障から、公共サービス、果ては政党政治に至るまで、政治のあり方に広範囲に深甚な影響を与える。注意深い統治者であれば、「大手術」の前には長期的な視野で周到な計算を尽くすであろうが、それでも「思われざる効果」に悩まされよう。わが国でも、政権交代後の中央政府の大混乱が收拾されれば、やりかけの分権改革をどのような方向に進めるのが、国政のもう一つの最大の課題として再浮上するはずである。今のうちに、統治の骨格としての政府間関係を先進各国ではどのように動かそうとしてきたのか、そのヴァリエーションの幅広さを概観し、再編に関わる各国共通のダイナミズムを掴んでおくことは決して無意味ではあるまい。

英文を中心に最近の図書・雑誌論文を輪読する。歴史的な視座を重視し、邦語では、北山俊哉『福祉国家の制度発展と地方政府：国民健康保険の政治学』（有斐閣、2011年）や、穴見明『スウェーデンの構造改革：ポスト・フォード主義の地域政策』（未来社、2010年）などを取り上げるが、英語文献は、市場化の潮流の中での最近の動向を扱う B. Guy Peters et al.(eds.), *Steering from the Centre: Strengthening Political Control in Western Democracies*, University of Toronto Press (September 2011) が到着次第、主たる教材とする予定である。

定められた回数の報告を行うほか、毎回のゼミへの出席と議論への参加が単位履修・成績評価の要件である。なお、ゼミは毎回、時間延長が見込まれるので、毎週、午後 7 時過ぎまでは予定を確実に空けておくこと。